諏訪市埋蔵文化財調査報告第６４集

# 市内遺跡発掘調査報告書

（平成２０年度）

－長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書－

２００９．３

諏 訪 市 教 育 委 員 会

# 例　言

1．本書は、長野県諏訪市内遺跡の平成２０年度発掘調査報告書である。

2．本調査は、諏訪市教育委員会が調査主体者となり、諏訪市教育委員会の編成する諏訪市遺跡調査団が調査を担当した。

3．それぞれの現場における調査期間は、遺跡ごとに記載してある。報告書作成作業は平成２１年１月から平成２１年３月まで、諏訪市埋蔵文化財整理室で行った。

4．本文中における水糸レベルは可能な限り絶対標高を使用している。

5．現場における記録と整理作業の分担は次の通りである。

遺構等実測……五味裕史・中島透・赤堀彰子・藤田　香

遺物水洗・注記作業……神奴勝正・藤田・古畑しずゑ　　遺物写真撮影……神奴

遺物実測……赤堀・神奴　　遺構・遺物トレース……藤田　　図面写真整理……藤田・中島

6．本書の編集については諏訪市教育委員会事務局が担当した。

7．調査の記録は、諏訪市教育委員会で保管している。

各遺跡の略称および出土遺物の注記は以下の通りである。

ミシャグチ平遺跡…MSHD　　真弓塚古墳…MAYM　　柳口周辺遺跡…YNG

金子城跡遺跡…KNJ６、KNJ７　　高島一丁目遺跡…TKS３　　諏訪神社上社遺跡…SJK６

8．発掘調査および報告書作成に際し、調査・整理作業参加者のほかに下記の方々をはじめ多くの方々にご指導・ご教示を得た。記して感謝申し上げる。（順不同、敬称略）

小澤四郎　金子喜彦　黒沢真幸　後町俊樹・後町美智子　後町きみ　田口英敏　藤森賢一

藤森秀毅　松尾博文　宮坂　勉　宮沢福子　村田美香子　目須田茂穂・目須田美代子・目須田陽介

諏訪大社　㈱ホンザン　諏訪市土地開発公社　㈲笠原工務所　㈱金子工務店　㈱信和建設

岡部設備　土橋健三　降旗香代子　髙見俊樹　関沢佳久　中川聡史　守矢昌文　柳川英司

花岡秀朗　諏訪市都市計画課　長野県教育委員会文化財・生涯学習課

（目次）


例言・目次

Ⅰ．市内遺跡発掘調査について・・・・・・・・1

Ⅱ．ミシャグチ平遺跡試掘調査・・・・・・・・3

Ⅲ．真弓塚古墳試掘調査・・・・・・・・・・・4

Ⅳ．柳口周辺遺跡確認調査・・・・・・・・・・5

Ⅴ．金子城跡遺跡試掘調査（第６次）・・・１１

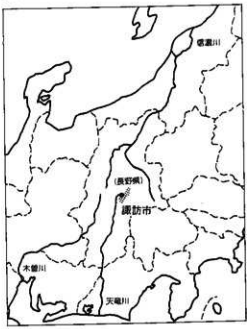
Ⅵ．高島一丁目遺跡発掘調査（第３次）・・１２

Ⅶ．諏訪神社上社遺跡試掘調査（第６次）・１９

Ⅷ．金子城跡遺跡試掘調査（第７次）・・・２２

報告書抄録

写真図版

# Ⅰ　市内遺跡発掘調査について

## 1　今年度の発掘調査

諏訪市内には現在２２０箇所以上にのぼる埋蔵文化財包蔵地が確認されている。これらの遺跡内における開発行為は例年発生しているが、以前に多かった規模の大きな事例は年々少なくなり、最近では個人住宅などの小規模なものが主体となっている。諏訪市教育委員会ではこれらの開発行為に迅速に対応するため、諏訪市遺跡調査団を編成し、国庫補助事業として「市内遺跡発掘調査事業」を実施し、埋蔵文化財の保護を図っているところである。

本年度は、埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に伴う発掘届の提出は１９件あり、昨年度と比べると３倍以上増加することとなった。このうち、７件について試掘・確認調査を実施したが、その内１箇所は本発掘調査となり、また１件は確認調査によりこれまで知られていなかった新たな遺跡を発見するなど、大きな成果を挙げることができた。ここに、その内容についてそれぞれ報告したい。

・補助事業決定の経過（抄）

平成２０年４月１６日付け２０生学文第３号
平成２０年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書　市内遺跡発掘調査事業（国庫）
平成２０年６月２日付け２０庁財第６２号（２０教文１－３７号）
平成２０年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知　市内遺跡発掘調査事業（国庫）
平成２０年９月１９日付け２０生学文第６０号
平成２０年度国宝重要文化財等保存整備費補助金計画変更承認申請書　市内遺跡発掘調査事業
平成２０年１１月４日付け２０庁財第２６３号（２０教文１－３７号）
平成２０年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定変更通知　市内遺跡発掘調査事業

## 2　調査組織

諏訪市遺跡調査団（平成２０年度）

| | | |
|---|---|---|
| 団　長 | 細野　祐 | （諏訪市教育委員会　教育長） |
| 副団長 | 岩波　文明 | （諏訪市教育委員会　教育次長） |
| | 宮坂　光昭 | （諏訪市文化財専門審議会委員） |
| 調査担当 | 中島　透 | （諏訪市教育委員会学芸員） |

調査団員（調査参加者）

赤堀彰子・大木丈夫・神奴勝正・藤田香・古畑しずゑ・宮坂茂子

（事務局）

| | | |
|---|---|---|
| 事務局長 | 小澤　秀昭 | （諏訪市教育委員会　生涯学習課長） |
| 事務主幹 | 五味　裕史 | （諏訪市教育委員会　生涯学習課文化財係長） |
| 事務局員 | 小林　純子・中島　透 | （諏訪市教育委員会　生涯学習課文化財係） |

第１図　平成２０年度調査遺跡位置図（1/50000）

# Ⅱ　ミシャグチ平遺跡

1．所在地　　諏訪市四賀５８８３－４他
2．調査期間　平成２０年４月２２日
3．調査面積　４㎡
4．調査目的　個人住宅建設に先立つ試掘調査
5．調査担当　中島　透
6．検出遺構　なし
7．出土遺物　土器片（縄文～平安）
　　黒曜石片

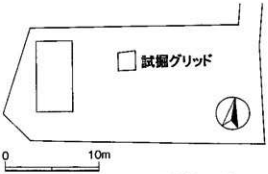
8．調査概要

本遺跡は諏訪盆地の東側の山裾、四賀普門寺地区内を流れ下る赤津川が形成する扇状地上に位置する（第２図）。四賀地区では最大規模の遺跡と見られ、諏訪社大祝の祖有員の居館があった場所との言い伝えも残り、歴史的に興味深い場所でもある。過去に有孔石剣の優品が発見され、大正１３年（1924）刊の『諏訪史』第１巻に紹介されるなど遺跡としては古くから知られていたが、これまで発掘調査は行われていなかった。

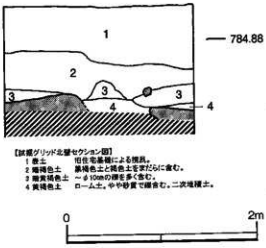
今回、遺跡中央部付近の宅地で個人住宅建設の計画があり、事前に試掘調査を行った。２ｍ×２ｍのグリッドを１箇所設定し手掘りで掘り下げたところ（第３・４図）、若干の遺物が出土したものの遺構の検出はなく、過去の造成等による撹乱により包含層は残っていないものと判断された。

今回は遺構の発見はなかったが、前述の通り大祝に関する神聖な場所として地元ではこの土地を敬い守ってきた経緯があり、現在も遺跡の重要部分はまだ手付かずのまま残存していると考えられるため、今後の開発には充分目を配る必要がある。

第２図　遺跡位置図（1/5000）




第３図　調査区位置図（1/400）




第４図　調査グリッドセクション図（1/40）

# Ⅲ　真弓塚古墳

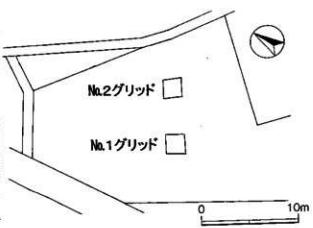
1．所在地　　諏訪市湖南４０９２他
2．調査期間　平成２０年５月１９日
3．調査面積　８㎡
4．調査目的　個人住宅建設に先立つ試掘調査
5．調査担当　中島　透
6．検出遺構　なし
7．出土遺物　磁器片（中近世）
　　黒曜石片（縄文）、石製品（近代）

8．調査概要

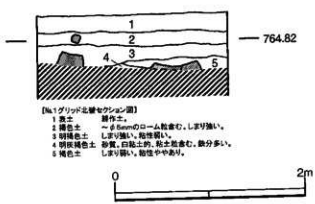
本遺跡は諏訪盆地の西側、通称西山の斜面と盆地の平坦地との境にあたる位置に存在する（第５図）。周辺に遺跡は知られていないが、南西の山裾に諏訪大社摂社の一つである習焼神社が鎮座している。この神社では古来流鏑馬が盛んに行われていたといい、その馬場跡に建てられたというのが本遺跡内に祀られている流鏑馬社である。ここには墳丘状の地形があって古墳ではないかといわれてきたが、詳細は全く不明であった。

今回、遺跡北側の畑地で個人住宅の建設計画があり、それに先立って試掘調査を行った。２ｍ×２ｍの試掘坑を２箇所設定し、手掘りにより調査した結果（第６・７図）、若干の遺物が出土したが遺構は検出されなかった。今回は古墳の存在を証明する材料は得られなかったが、流鏑馬社の部分はまだ墳丘状の高まりを残しており、今後の調査によってデータを得られることを期待したい。

第５図　遺跡位置図（1/5000）




第６図　調査区位置図（1/400）



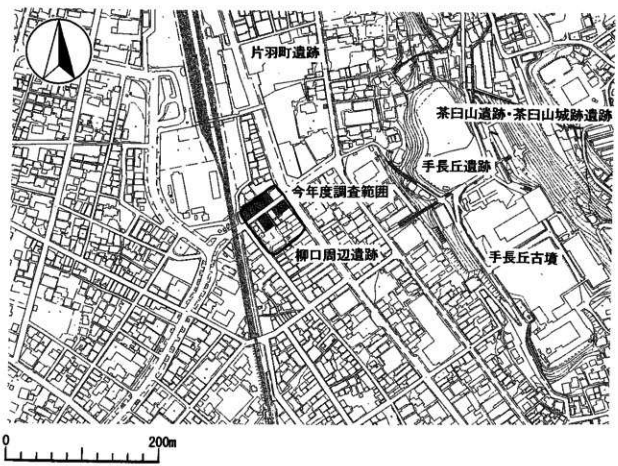

第７図　調査グリッドセクション図（1/40）

# Ⅳ　柳口周辺遺跡

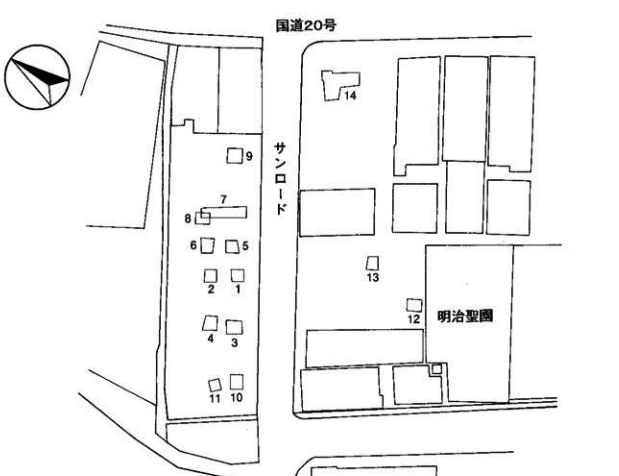
１．所在地　諏訪市諏訪１－２－１１ほか
２．調査期間　平成２０年６月９日～７月１８日
３．調査面積　７６．８㎡
４．調査目的　埋蔵文化財の有無確認調査
５．調査担当　中島　透
６．検出遺構　石列遺構、集石遺構、石列状遺構（近世～近代）
７．出土遺物　土器片・陶磁器片・金属製品（中世～近代）ガラス製品・石製品（近代）

８．調査概要

本遺跡は諏訪湖の東岸、現在の上諏訪の市街地内に位置する（第８図）。霧ヶ峰から伸びる山塊の縁が崖状に切れ、その直下に平坦な地形が諏訪湖に向かって続いている。この山塊上には戦国時代に茶臼山城（旧高島城）があり、その麓の岡村には代官所があったとされている。天正１８年（1590）に豊臣秀吉の部将、日根野高吉が小田原攻めの功によって諏訪を与えられ、天正２０年頃から諏訪湖畔の高島と呼ばれる島状地形の場所に城を築いた。これが現在も本丸跡が公園として残る高島城である。城の築城とともに城下町も整備され、甲州道中沿いに町が形成された。その一角にあたるのが当該地である。城と城下町は一本道である縄手でつながれ、道の両側には初めヤナギの木が植えられていた。これは後にケヤキに替わるが、現在も並木通りとして残っている。この柳縄手の入り口にあたることから当該地一帯を「柳口」と呼んだと思われる。




第８図　遺跡位置図（1/5000）



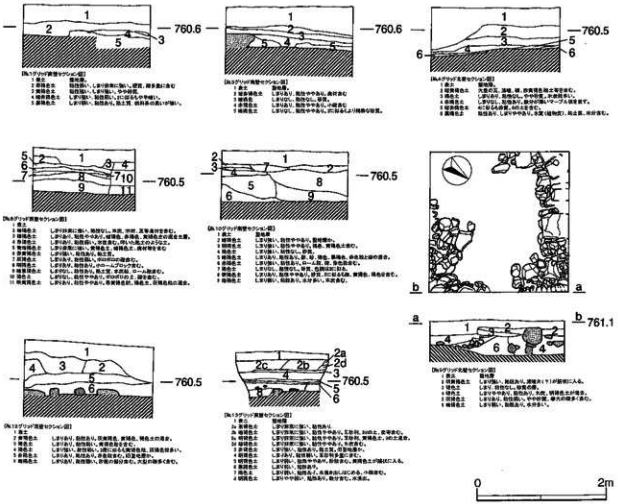

第９図　調査区位置図（1/600）

ここには江戸時代を通じて「柳口役所」と呼ばれる高島藩の簡単な民政を担当する機関が置かれていたことが、各種資料によってわかっている。その後、明治維新ののちは明治２年（1869）に国学を学ぶための藩校である「皇学校」が置かれ、その後、明治１２年（1879）には現在の高島小学校の前身である高島学校が旧三之丸から移転、新築され、明治３８年まで校舎が建っていた。明治１３年に明治天皇行幸の際、高島学校に行在所が置かれ、それを記念して昭和初期に公園が整備された。これは現在も明治聖園として残っている。

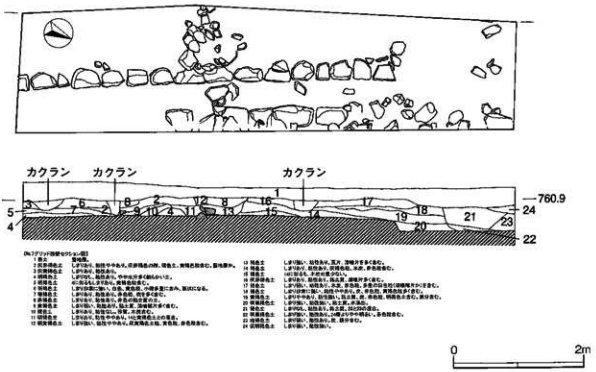
今回、市都市計画課からこの明治聖園について文化財の有無照会があった。公園を含む当該地一帯には指定文化財はなく、また周知の埋蔵文化財包蔵地として登録もされていなかった。市教育委員会としては、上記のように当該地における歴史的由緒が明らかであるため、特に柳口役所にかかわる遺構の有無について確認する必要があると判断し、地権者の承諾を得て埋蔵文化財の有無確認調査を実施することとした。

【確認調査について】

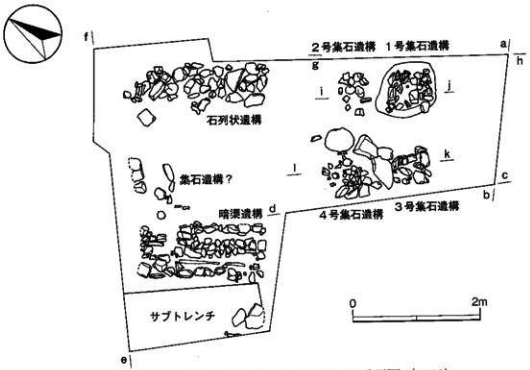
当該地は通称サンロードと呼ばれる市道大手・豊田線が中央付近を通過し、その両側にあたる。ここ



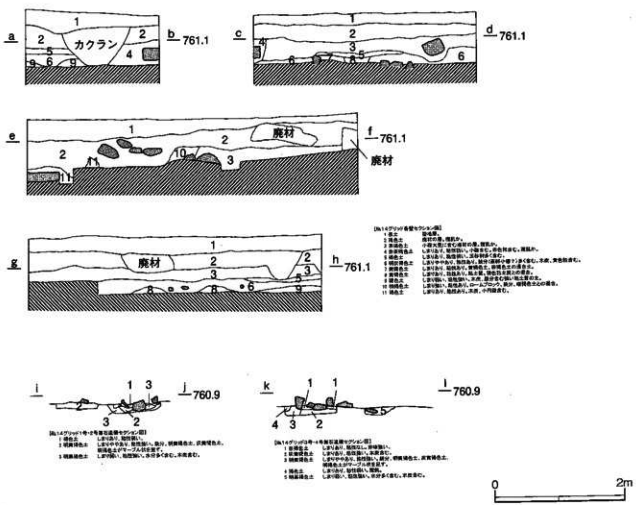

第１０図　各調査グリッドセクション図（1/60）




第１１図　No.７グリッド平面およびセクション図（1/60）




第１２図　No.１４グリッド平面図（1/60）




第１３図　No.１４グリッド各壁および遺構セクション図（1/60）

では街路事業に伴う住宅等の移転、解体が進められており、調査は解体によって更地になっている部分に試掘グリッドを設け、遺構の有無や土層の堆積状況等を確認していった。試掘グリッドは最終的に１４箇所（第９図）におよび、そのうち３箇所で遺構が検出された。以下、サンロードの駅側を便宜的にＡ区、茅野側をＢ区とし、その成果について述べる。

＜Ａ区＞

大手・豊田線の北、上諏訪駅側は国道２０号線との交差点脇および踏切脇を除くと全て更地となっており、ここには１から１１までの試掘グリッドを設け、調査を行った。その結果、Ａ区の南西側半分にあたる№１～６および１０、１１グリッドでは旧建物の基礎による攪乱が著しく、遺構は発見されなかった。一方、北東側半分にあたる№７、９グリッドでは多量の漆喰片や瓦片等を含む粘土質の土層を取り除くと遺構が発見され、当該地に遺跡が残存している最初の発見となった。この粘土層は近代の整地層であると見られる。№７グリッド（第１１図）では石を２列に整然と並べた石列遺構が検出され、調査区を拡張して石列を追った結果、ある程度の長さを持っていることが判明し、近世の土地区画あるいは水路の遺構が想定された。№９グリッド（第１０図）では礫が帯状にグリッド内を取り囲み、この段階では性格はわからなかったが土層の状況等から近世～近代の何らかの遺構であると判断された。

＜Ｂ区＞

大手・豊田線の南、茅野市側は一部が更地となっており、№１２～１４グリッドを設定し、調査を行った。№１２、１３グリッドでは遺構は発見されなかったが、№１４グリッド（第１２・１３図）では礫が固まった状態で検出されたため、可能な限り調査区を拡張して遺構の広がりを追ったところ、少なくとも４箇所以上の礫の集中部（１号～４号集石遺構）、石列状遺構、暗渠遺構が発見された。集石遺構は近世の建物の礎石を据えるための栗石が残存したものと見られ、その他は近代の遺構と思われる。

【出土遺物】

遺物の内容は時代的には主に中世から近代までで占められる。第１４図に一部を示した。

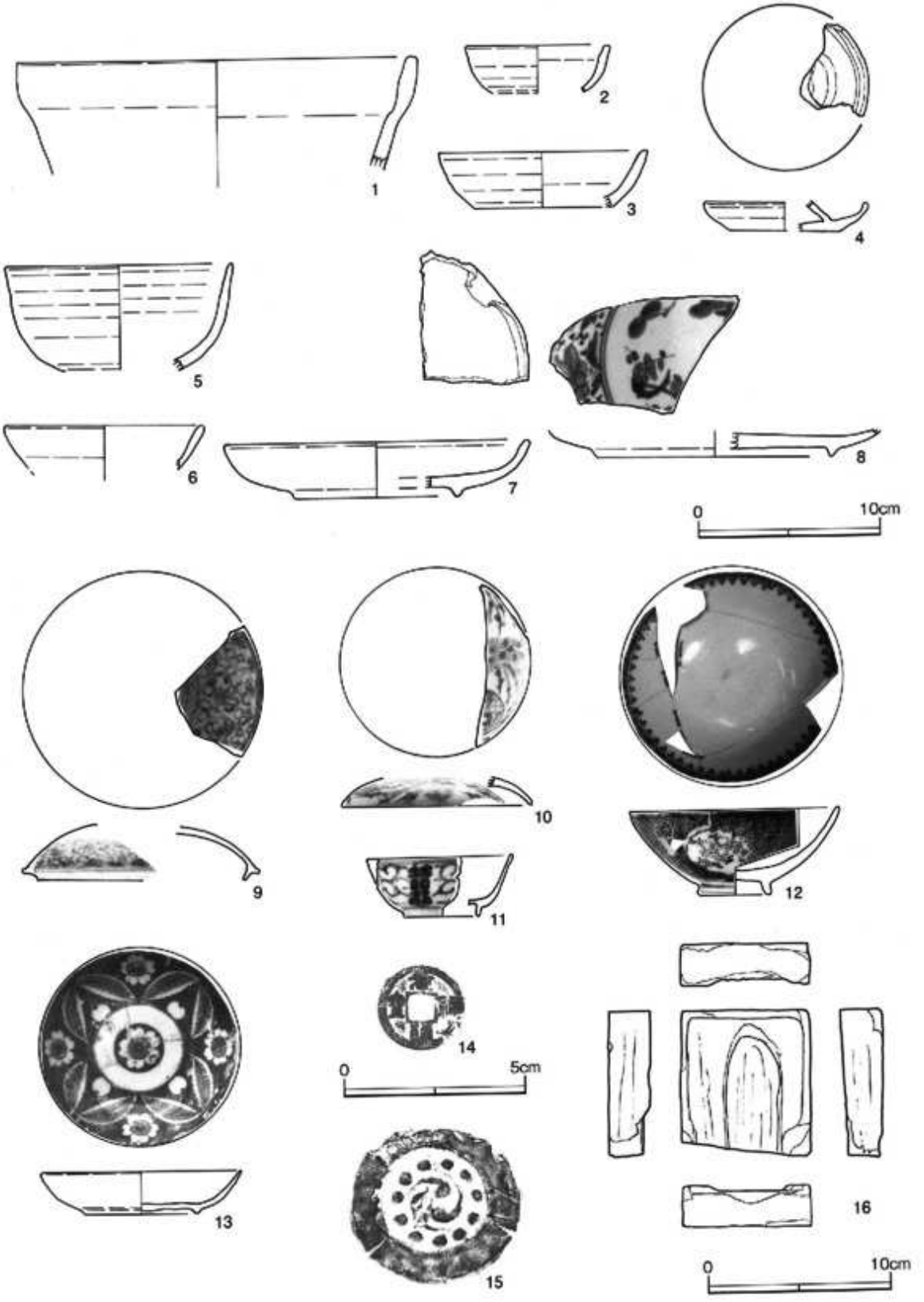
１は内耳土器と思われる。小片のため図上復元を行った。２～６は近世の陶器類である。２、３は灰釉がかかる皿と見られ、６は灯明皿である。７は白濁色を呈し、細かな貫入が見られる皿で、口縁部を一部内側に曲げているのが特徴である。８は近世の染付大皿である。９～１３は幕末から近代の磁器類である。９～１１は幕末～明治初期のものと見られる。１２はコバルト釉が鮮やかな印判染付碗である。１４は腐食があるものの「元祐通宝」と読め、北宋の渡来銭と思われる。１６は硯の破片である。

遺物全体としては近代のものが圧倒的であり、特に磁器が大量に出土している。また、図示していないが石盤と見られる薄い石製品も出土しており、高島学校に関連する遺物が含まれている可能性が高い。

一方で、中世に属する遺物も若干ながら発見され、高島城築城との関係から見ても注目に値する。

【調査の成果と課題】

今回の調査によって当該地には遺跡が残存していることが判明し、「柳口周辺遺跡」として新たに周知の埋蔵文化財包蔵地として登録することができた。市内では数少ない近世～近代遺跡の調査として今後の埋蔵文化財保護の貴重なデータを提供するものと思われる。また、これまで上諏訪の市街地は著しい開発によって遺跡の残存状況は全く不明であったが、状況によっては遺跡が残っていることが判明したため、今後は旧城下町域についても機会を捉えてデータを収集する必要がある。




第１４図　遺物実測図（14 のみ 2/3、ほかは全て 1/3）

# V　金子城跡遺跡（第６次）

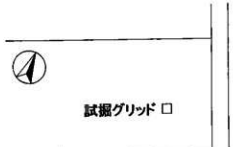
１．所在地　諏訪市中洲３８３８－４
２．調査期間　平成２０年８月１３日
３．調査面積　４㎡
４．調査目的　介護施設建設に先立つ試掘調査
５．調査担当　中島　透
６．検出遺構　なし
７．出土遺物　なし

８．調査概要

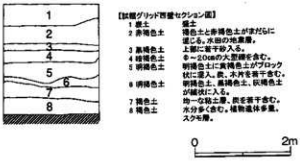
本遺跡は諏訪盆地の中央部、宮川の流れが大きく屈曲するその内側に位置する（第１５図）。戦国時代、武田氏に一旦滅ぼされた諏訪氏だが、武田氏、織田氏の滅亡後に旧臣に迎えられた諏訪頼忠が諏訪を奪還し、城を築いて本拠としたのがこの金子城であるといわれている。しかし在城してわずか数年で徳川家康の関東転封によって諏訪を離れることになり、次いで豊臣秀吉の部将日根野高吉が領主として諏訪に入り、新たに高島城を築いた。その際、金子城を取り壊して築城の用材として運び出したといい、現在は城とわかるものは何も残っていない。

今回、遺跡中央部の水田地で介護施設の建設計画があり、それに先立って試掘調査を行った。２ｍ×２ｍの試掘坑を１箇所設定し、重機と手掘りにより調査した結果（第１６・１７図）、遺構、遺物ともに出土はなかった。本遺跡東側の水田地帯はこれまでの調査から見て遺構の残存は稀薄な傾向にあるが、今回は耕作シーズンで水田の水位の関係から限られたデータにとどまっている部分もあるので、今後も引き続きデータの収集に努めていきたい。

第１５図　遺跡位置図（1/5000）




第１６図　調査区位置図（1/800）




第１７図　調査グリッドセクション図（1/80）

# Ⅵ　高島一丁目遺跡（第３次）

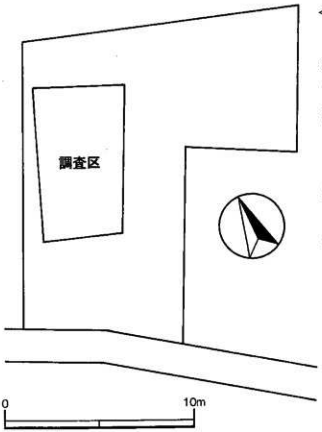
１．所在地　諏訪市高島１－２９１０－３１
２．調査期間　平成２０年９月３日～１５日
３．調査面積　３５．５㎡
４．調査目的　個人住宅建設に先立つ発掘調査
５．調査担当　中島　透
６．検出遺構　石垣状遺構、貼床状遺構、ピット、焼土址（中世～近世）
７．出土遺物　土器片・陶磁器片（中世～近代）石器・黒耀石片（縄文）金属製品

８．調査概要

本遺跡は諏訪盆地の東、高島公園と中門川との間の平坦地に位置する（第１８図）。慶長３年（1598）に豊臣秀吉の部将、日根野高吉によって築かれた高島城の二之丸にあたり、南側にはその高島城本丸跡である高島城遺跡が、またすぐ北側には弥生土器が出土した三の丸遺跡が存在する。平成１４年の第１次調査によって遺跡が発見された比較的新しい遺跡で、今回は第３次となる。

今回、遺跡の最北端の宅地で個人住宅が建設されることになり、事前に調査を行った。当初２ｍ×８ｍの試掘トレンチを設定し掘り下げたところ遺構と思われるものを検出したため、全体的に掘り広げることとした。その結果、最終的に約５ｍ×８ｍの調査区となり（第１９図）、時期が異なると見られる２面の遺構確認面とともに多くの遺構を検出した。以下、各面ごとその概要を紹介していくこととする。

第１８図　遺跡位置図（1/5000）



第１９図　調査区位置図（1/200）

【発見した遺構】

＜第１面＞

現地表面からおおよそ７０ｃｍの深さで土層の状況が変わり、石の列や遺構と見られる方形のプランが検出されたため、範囲をさらに広げて掘り進めた結果、石列遺構１基、焼土址（１～３号）３基、ピット（１～１３号）１３基を発見した（第２０・２１図）。なお、はじめに遺構と思われた方形のプランはさらに詳細な調査を行った結果、自然堆積の黒褐色土が堆積の傾斜の具合で偶然方形に見えたものと考えられ、最終的に遺構ではないことが判明した。

集石遺構は調査区南西隅で発見された。調査区西壁に沿うように検出され、調査区外に続いている可能性もある。後述する第２面の遺構と違い、南西－北東方向に軸を置いているように思われる。焼土址は掘り込みを有するがごく浅く、サイズも径３０ｃｍ前後といずれも共通している。ピットもサイズや形状等に共通性はなく、また位置も規則性を持っているとは言い難い。

＜第２面＞

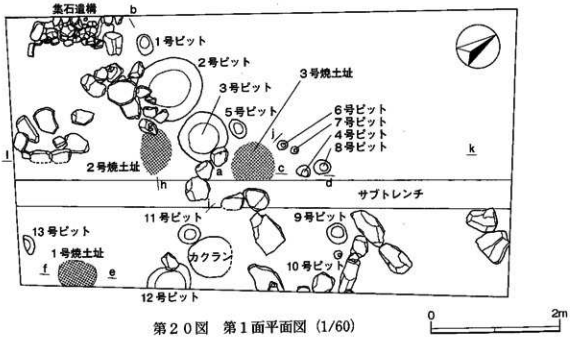
第１面からおおよそ１５ｃｍ程度掘り進めると検出された（第２４図）。大きく２つの遺構が特徴的である。一つは調査区内をほぼ東西方向に横切るＡ、Ｂ２列の石垣状遺構（第２３・２４図）である。２つの遺構の間は約３ｍである。いずれもややきつい勾配を持ち、用いている石は加工の痕跡が殆ど認められず、加工しながら積み上げたものではなく、自然石をそのまま積んだいわゆる野面積みのような様相を呈している。湧水のためこれ以上の掘り下げはできなかったが、もう少し下部に続いている可能性がある。なお、両石列の間の部分にも石が多く検出されたが、規則性があるかどうかは判然としない。

もう一つの遺構は、調査区南側で検出された貼床状遺構である。石垣状遺構Ｂの内側（南側）の大部分にローム土を薄く敷いており、極めて浅いながらロの字状に方形の溝が認められる。これは第１次調査でも同様の遺構が発見されている。しかしながら、第１次のものは中央に焼土址があって炉址と判断されているが、今回調査ではそれにあたる焼土址は見つかっていない。ただし、ほぼ調査区外にあたるがこのロの字状の溝より外側で焼土址と見られるものがセクションで確認されたため、全く関係ないとは言い切れない。

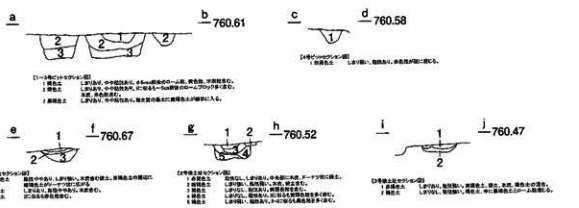
【出土した遺物】

遺物は縄文から近代まで多岐にわたる。その一部を第２６・２７図に掲載した。

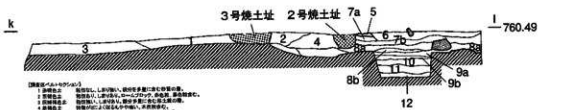
１～１０は中世の土器類である。１は内耳土器である。器形の復元できたものを掲載したが、他にも比較的多く出土している。２～１０はカワラケである。１１～１６は中世から近世の陶磁器類である。



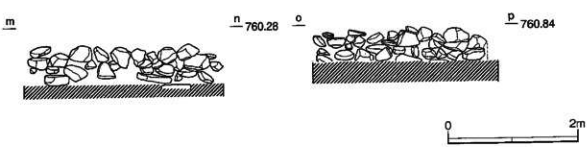

第２０図　第１面平面図（1/60）



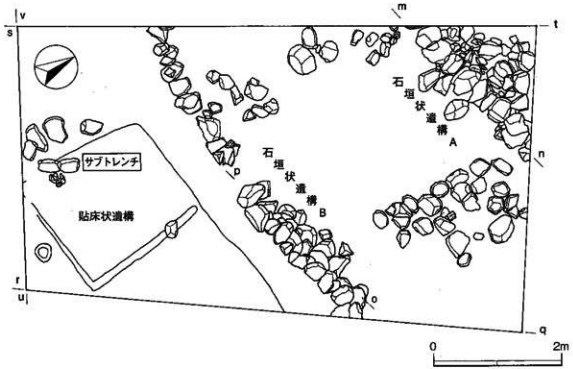

第２１図　第１面遺構セクション図（1/60）



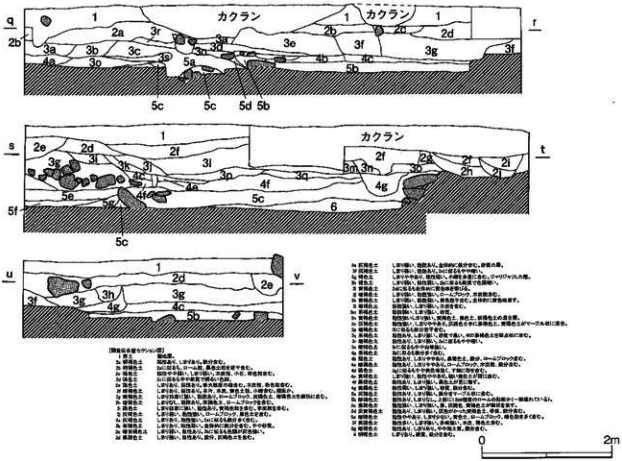

第２２図　調査区内ペルトセクション図（1/60）




第２３図　第２面石垣状遺構立面図（1/60）




第２４図　第２面平面図（1/60）




第２５図　調査区各壁セクション図（1/60）

このうち１１、１２は陶器、１３は土器である。１４は型押しの皿で、これと類似する資料が第２次調査でも出土している。１５は高台の底に砂が付着する「砂高台」となっており、出土磁器の中では古いものの一つである。１７～２３は土製品である。１７～２２は土錘で、１７のものは過去の出土資料と比較しても大型の部類に属する。２３は内耳土器とほぼ同じ胎土であるが、高台のような部分を持っている。２４は磨製石斧である。小型で欠損もなく整った形である。２５は硯の破片である。「陸」から「海」の部分の傾斜が残る。２６は古銭で、洪武通宝である。古銭は今回数点出土しているが他のものは腐食のため塊状になっており、文字もほとんど読めない。２７は金属製の刀装具である。２８～３１は近代のガラス製品である。もともと住宅があったため、他にも化粧品の瓶やインク瓶など生活色の強いものが多く出土していることが特徴である。

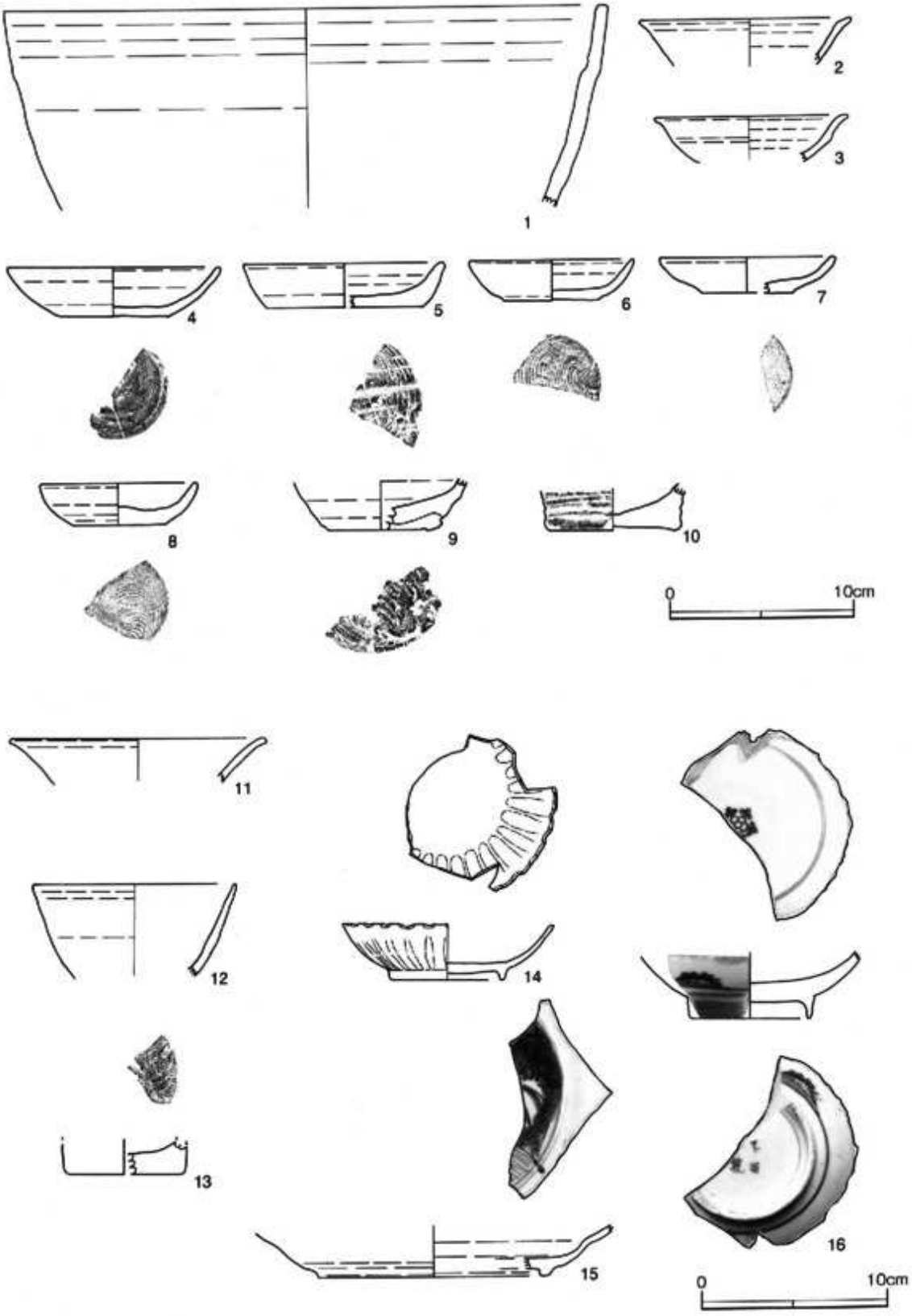
全体的な特徴としては量的には近代のものが多いが、中世～近世の陶磁器類は注目すべきものが多い。

【調査の成果と課題】

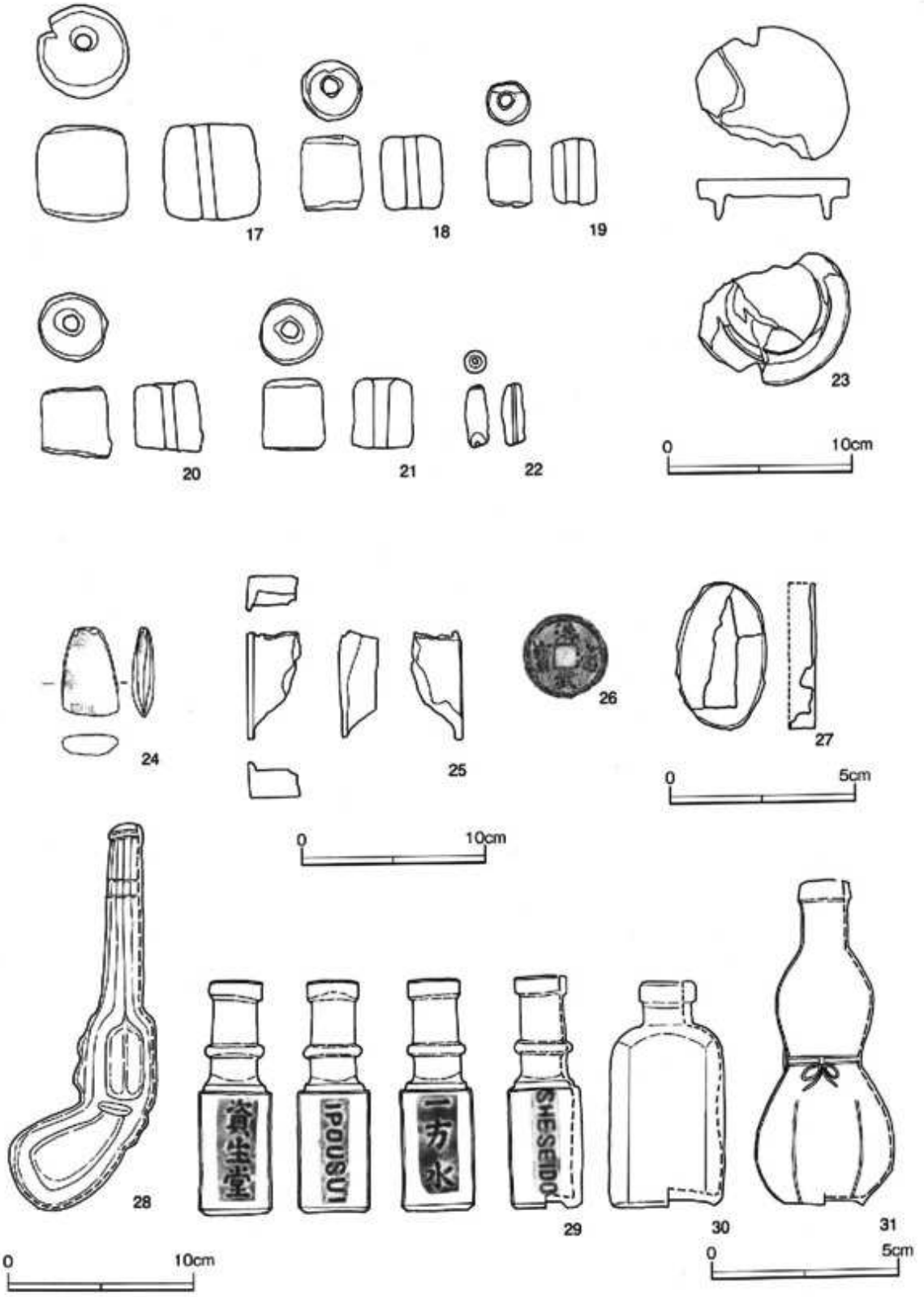
そもそも今回の調査地点は中門川沿いであるため、遺跡の残存範囲がどこまで広がるかが焦点の一つであった。その点でいえば、今回の調査によってまず遺跡の北端の状況の一端が明らかになったことは大きい。図らずも今回も含めた計３回の調査は遺跡の南から北を縦断するような位置にあたるが、いずれも濃密な遺構、遺物の分布を示しており、本遺跡の重要性を推測させるに充分な内容である。

しかしながら、今回検出した遺構、特に第２面のものについては時期を特定できる遺物の出土が乏しかったこともあり、その性格を把握できたとは言い難いものがある。そもそも石垣状遺構（貼床状遺構も同様だが）の東西方向という軸線は、近世の、少なくとも高島城二之丸内という立地において、それと一致するものが今のところ存在しない。近世における当該地を知る資料として、寛文４年（1664）制作とされる八剱神社蔵「御枕屏風」や慶応４年（1868）制作の「慶応四年城下町図」などがあるが、この場所が家老二之丸諏訪家の屋敷だった時期の様子を描いている「御枕屏風」でも、また家老二之丸諏訪家が「二之丸騒動」によって廃され跡地に藩校長善館が置かれた後の様子を描いている「城下町図」でもこの軸線はないと言ってよい。強いて言えば、両石垣状遺構の間の土層は水成堆積的な様相を示しており、「城下町図」の描かれている舟止に関するものが可能性として考えられたが、決定的な材料はない。従って、今回は水に関する施設の可能性を指摘するのみにとどめるが、今回の遺構が何であるのか、今後更にデータを蓄積していく必要がある。

また、中世から近世初期の遺物については、過去２回の調査でも同じく興味深い資料を多く発見しているが、これらは時期的には高島城築城以前、ここが高島の村と呼ばれた村落であった頃から、日根野高吉の高島城築城期を経て諏訪氏入城に至る、諏訪にとって非常に重要な時期にあたり、その変遷を遺物でも如実に示していると言えるだろう。特に日根野時代については日根野氏の諏訪統治が非常に短かったこともあり、その痕跡を諏訪の中に見出す機会は限られている点で、これらの資料はその数少ない物的資料である。そしてさらに重要と思われるのは、例え短期間とは言え、諏訪に豊臣系の武将が入っていたこと、すなわち豊臣氏の支配下にあったことによるさまざまな影響を語る上でこれら当該期の資料が非常に大きな意味を持つ可能性があるということである。これらの問題については現時点ではまだまだ資料不足ではあるが、これまでの調査データや資料を再度点検しながら、今後も機会を見て旧二之丸の他にも広く旧城内にあたる部分の状況を把握していく必要がある。




第２６図　遺物実測図１（1/3）




第２７図　遺物実測図２（26・27 および 29～31 は 2/3、それ以外は 1/3）

# Ⅶ　諏訪神社上社遺跡（第６次）

１．所在地　　諏訪市中洲宮山１
２．調査期間　平成２０年１０月８日～１６日
３．調査面積　１４．８㎡
４．調査目的　鳥居改修工事に先立つ試掘調査
５．調査担当　　中島　透
６．検出遺構　　なし
７．出土遺物　　陶磁器片（近世～近代）

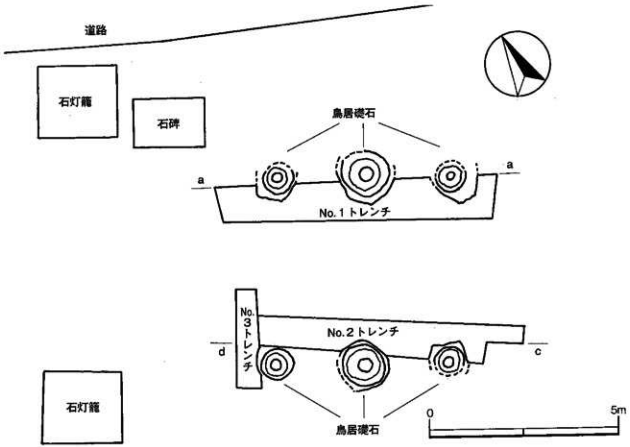
８．調査概要

本遺跡は、全国の諏訪神社の総本社諏訪大社上社本宮の境内にあたる（第２８図）。現在地の鎮座の始まりは諸説あるが、これまで５次の調査が行われ、中世以降の遺構および遺物が発見されている。境内には現在３箇所に鳥居があり、それは東参道からの入口、北参道からの入口（これは平成になって建てられたもの）、それに今回調査地の西側からの参道入口に位置する通称「波除鳥居」である。この名称の由来は、古くは諏訪湖が現在より広く、この場所まで波が打ち寄せていたという言い伝えによる。

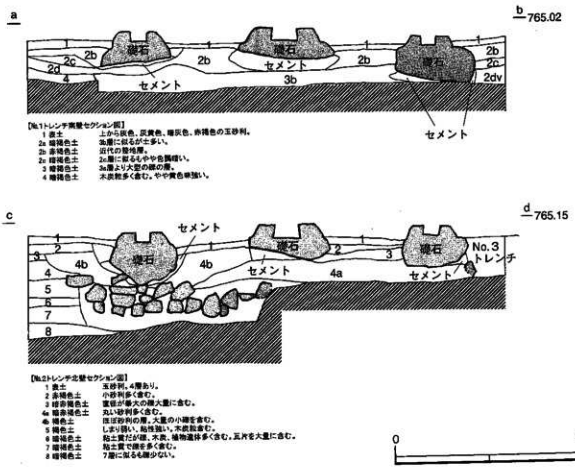
この波除鳥居は諏訪大社の大鳥居の中では珍しい木製で、そのために近年老朽化が著しいことから改修工事が行われることになり、それに先立って事前に試掘調査を行った。当該地は諏訪大社上社本宮現境内の最北端にあたるが、この一帯は近代まで民地となっており、近世は「蓮池院」という上社神宮寺の寺院の一つがあった場所にあたると考えられる。蓮池院の名称は、すぐ脇に蓮池があった（現在も残っている）ことによる。従って、調査ではこの蓮池院の遺構が発見される可能性が考慮された。

0　200m

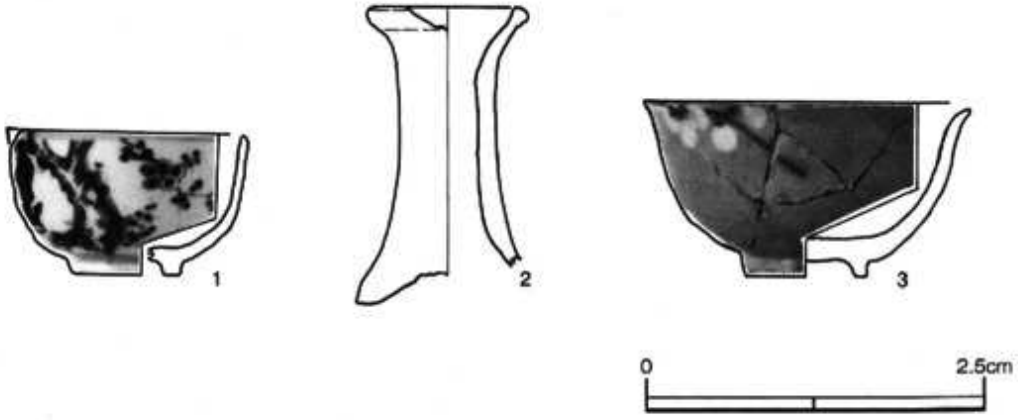
第２８図　遺跡位置図（1/5000）




第２９図　調査区位置図（1/100）




第３０図　調査トレンチセクション図（1/60）




第３１図　出土遺物（1/2）

調査地点には波除鳥居の礎石が３基づつ２列に並んでいるが、その礎石沿いに１ｍ×７ｍを２本、またそれに直交するよう１ｍ×３ｍのトレンチを１本設定し、重機と手掘りによって掘り下げた（第２９図）。以下、山側をＡトレンチ、玉垣側をＢトレンチ、それにＡトレンチに直交する短いものをＣトレンチと呼称する。

Ａトレンチでは表土を除去した直下から大量の水が噴き出した。もともと山側から地下水が流れているとの話があり、その水脈の一部にあたったと思われる。ポンプで排水しながら掘り進めた結果、遺構は発見されなかったが、地表面から約１．３ｍ下の６層および８層から遺物が出土し（第３１図）、特に７層以下は撹乱等が見られない安定した土層の堆積状況を示していた。特に第３１図３は８層からの出土であり、少なくとも地表面下約１．５ｍより下は遺物包含層が残存しているものと判断された。なお、６層からは瓦片が多量に出土し、近代の整地に関するものと思われる。ＢトレンチはＡトレンチ同様、多量の湧水があって調査は難航したが、Ａトレンチ同様遺構は発見されなかった。Ｃトレンチについては撹乱が著しく、部分的な掘り下げのみで終了した。

なお、鳥居の礎石は神宮寺石製で、形状等から近世まで遡る可能性があると見られているが、今回の調査によってこの礎石の直下や周辺にはやや古いセメントと思われるものが付着しており、近代になって礎石の据え直しといった何らかの工事が行われていることが確認された。

遺物は第３１図に一部を掲載した。全てＡトレンチからの出土である。１は明治時代前半と見られる染付茶碗である。５層から出土。２・３は近世の陶磁器で、２は肥前系と見られる徳利の頸部である。６層から出土している、３は肌色の胎土に透明釉がかかり、鉄絵による梅花文が描かれた碗である。江戸時代後半のものと思われる。今回の調査では最も深い８層から出土している。

今回の調査では遺構の検出には至らなかったが、本遺跡は諏訪の歴史を語る上で欠くことができないものであり、今後も引き続きデータを蓄積していく必要があるとともに、詳細がわからないことも多い上社神宮寺に関する考古学的な情報も今後収集されていくことを期待したい。

# Ⅷ　金子城跡遺跡（第７次）

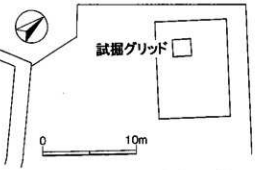
１．所在地　　諏訪市中洲4179−1
２．調査期間　平成２０年１１月１２日
３．調査面積　４㎡
４．調査目的　個人住宅建設に先立つ試掘調査
５．調査担当　中島　透
６．検出遺構　なし
７．出土遺物　陶磁器片（中〜近世）

８．調査概要

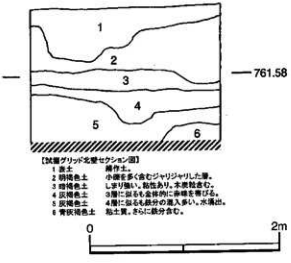
第６次調査（ｐ１１参照）の位置から南西方向〜２００ｍほどいった宮川沿いの宅地内が調査地点である（第３２図）。金子城跡遺跡については第６次調査の部分で既に述べているが、現在遺跡としている範囲の西側、すなわち宮川に近い部分は金子城の三之丸、二之丸、本丸および屋敷地があった場所と推定されており、いわば城の中枢部分にあたると考えられている。しかしながら、これまで明確な遺構はほとんど発見されていない。

今回、北側の宮川沿いの宅地内で個人住宅の増築計画があり、それに先立って試掘調査を行った。２ｍ×２ｍの試掘グリッドを１箇所設定し、手掘りにより調査した結果（第３３・３４図）、若干の遺物が出土したが遺構は検出されなかった。本遺跡は未だ城郭らしい遺構をみることなく調査を重ねているが、土層の状況は第６次調査とは全く別の様相を示しており、この宮川に近い西側部分は今後も充分注意していく必要がある。

第３２図　遺跡位置図（1/5000）




第３３図　調査区位置図（1/400）




第３４図　調査グリッドセクション図（1/40）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 市内遺跡発掘調査報告書 |
| 副書名 | 平成20年度諏訪市内遺跡発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 諏訪市埋蔵文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第64集 |
| 編著者名 | 中島 透 |
| 編集機関 | 諏訪市教育委員会 |
| 所在地 | 〒392－8511　長野県諏訪市高島1－22－30　℡0266(52)4141 |
| 発行年月日 | 2009年3月24日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| みしゃぐちだいら<br>ミシャグチ平遺跡 | すわし しが<br>諏訪市四賀 | 20, 206 | 208 | 36° 01′ 23″ | 138° 08′ 08″ | 2008. 4. 22 | 4 | 個人住宅建設に係る事前調査 |
| まゆみづか<br>真弓塚古墳 | すわし こなみ<br>諏訪市湖南 | 20, 206 | 326 | 36° 00′ 29″ | 138° 06′ 07″ | 2008. 5. 19 | 8 | 個人住宅建設に係る事前調査 |
| やなぎぐちしゅうへん<br>柳口周辺遺跡 | すわし かみすわ<br>諏訪市上諏訪 | 20, 206 | 56 | 36° 02′ 30″ | 138° 07′ 13″ | 2008. 6. 9<br>～<br>2008. 7. 18 | 76. 8 | 埋蔵文化財の有無確認調査 |
| かねこじょうあと<br>金子城跡遺跡(6次) | すわし なかす<br>諏訪市中洲 | 20, 206 | 359 | 36° 00′ 37″ | 138° 07′ 08″ | 2008. 8. 13 | 4 | 介護施設建設に係る事前調査 |
| たかしまいっちょうめ<br>高島一丁目遺跡 | すわし たかしま<br>諏訪市高島 | 20, 206 | 55 | 36° 02′ 14″ | 138° 06′ 58″ | 2008. 9. 3<br>～<br>2008. 9. 15 | 35. 5 | 個人住宅建設に係る事前調査 |
| すわじんじゃかみしゃ<br>諏訪神社上社遺跡 | すわし なかす<br>諏訪市中洲 | 20, 206 | 352 | 35° 59′ 45″ | 138° 07′ 17″ | 2008. 10. 8<br>～<br>2008. 10. 16 | 14. 8 | 鳥居改修工事に係る事前調査 |
| かねこじょうあと<br>金子城跡遺跡(7次) | すわし なかす<br>諏訪市中洲 | 20, 206 | 359 | 36° 00′ 33″ | 138° 06′ 59″ | 2008. 11. 12 | 4 | 個人住宅建設に係る事前調査 |

| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| ミシャグチ平 | 敷布地 | 縄文～平安 | なし | 土器片、黒曜石片 | |
| 真弓塚古墳 | 古墳 | 縄文～近世 | なし | 磁器片、黒曜石片、石製品 | |
| 柳口周辺 | 役所跡 | 中世～近世 | 石列遺構、集石遺構、石列状遺構、暗渠遺構 | 土器片、陶磁器片、金属製品、ガラス製品、石製品、木製品 | |
| 金子城跡(6次) | 城館跡 | 中世～近世 | なし | なし | |
| 高島一丁目 | 集落跡 | 縄文～近代 | 石埋状遺構、焼土址、ピット、貼床遺構 | 土器片、陶磁器片、土製品、石器、金属製品、ガラス製品 | |
| 諏訪神社上社 | 社寺跡 | 近世～近代 | なし | 陶磁器片 | |
| 金子城跡(7次) | 城館跡 | 中世～近世 | なし | 陶磁器片 | |

| | |
|---|---|
| 要約 | ・ミシャグチ平遺跡：個人住宅建設に伴い試掘調査を実施。遺物が若干出土したが、遺構は発見されず。<br>・真弓塚古墳：個人住宅建設に伴い試掘調査を実施。遺物がわずかに出土したが、遺構は発見されず。<br>・柳口周辺遺跡：街路事業に先立ち、埋蔵文化財の有無について確認調査を実施。近世～近代の遺構、遺物が発見され、当該地に遺跡が残存することが明らかになった。<br>・金子城跡遺跡(第6次)：介護施設建設に伴い試掘調査を実施。遺物・遺構ともに発見されず。<br>・高島一丁目遺跡：個人住宅建設に伴い発掘調査を実施。中世～近世の遺構、遺物が出土し、遺跡の北端における広がりを確認できた。<br>・諏訪神社上社遺跡：鳥居改修工事に伴い試掘調査を実施。遺構は発見されなかったが、遺物包含層と見られる土層の残存を確認した。<br>・金子城跡遺跡(第7次)：個人住宅建設に伴い試掘調査を実施。遺物がわずかに出土したが遺構は発見されず。 |

ミシャグチ平遺跡調査風景

試掘グリッド完掘状況

真弓塚古墳調査風景

No. 1 グリッド完掘状況

柳口周辺遺跡調査風景

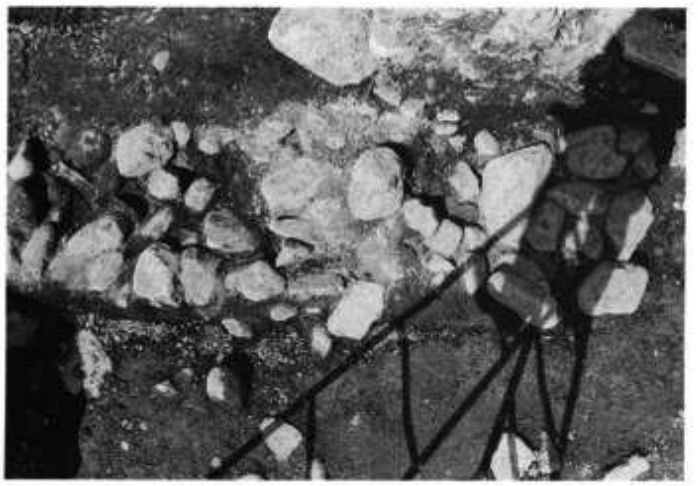
No. 7 グリッド遺構検出状況

No.9グリッド遺構検出状況

No.14グリッド遺構検出状況

1号集石遺構

4号集石遺構



石列状遺構

暗渠遺構

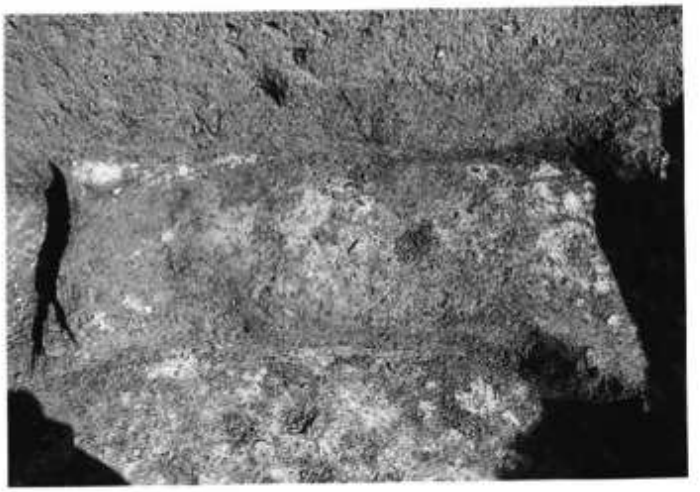
出土遺物（縮尺不同）

金子城跡遺跡（第６次）調査風景

試掘グリッド土層セクション

高島一丁目遺跡調査風景

第１面検出状況



１号焼土址

第２面検出状況

石垣状遺構A

石垣状遺構B

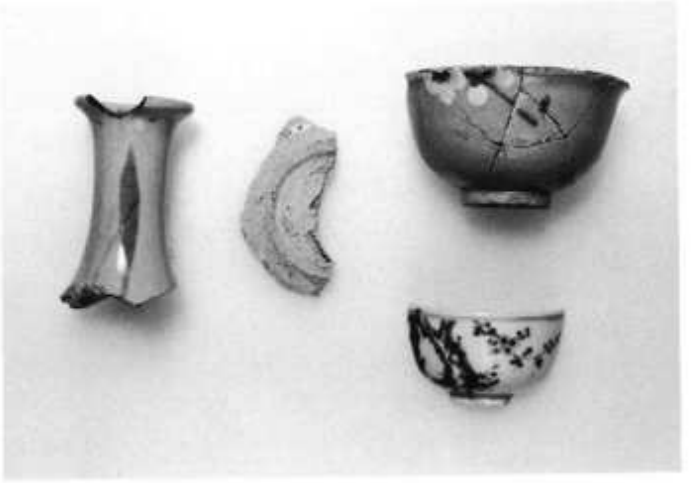
貼床状遺構

出土遺物（縮尺不同）

諏訪神社上社遺跡調査風景

Aトレンチ完掘状況

Bトレンチ完掘状況



出土遺物

金子城跡遺跡（第７次）調査風景

調査グリッド完掘状況

市内遺跡発掘調査報告書（平成２０年度）
－長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書－

平成２１年３月２４日

編集・発行　長野県諏訪市高島１－２２－３０
諏訪市教育委員会
印　　刷　㈱オノウエ印刷